



東京YMCA

2014 4 月号

発行所 公益財団法人東京YMCA 発行人 廣田光司
135-0016 東京都江東区東陽2-2-20 電話 03-3615-5562

URL <http://tokyo.ymca.or.jp>

東京YMCAの使命

東京YMCAは、イエス・キリストによって示された愛と奉仕の精神にもとづいて、青少年の精神、知性、身体の全人的成長を願い、地域社会に奉仕し、公正で平和な世界をつくるための運動を展開する。

伊豆大島台風災害 復興願って

少年サッカーチーム招く



伊豆大島サッカーチーム「大島マリンスFC」のみなさん



大島マリンスFCと対戦する東京YMCA江東センターの子どもたち。

「大島マリンスFC」は、小学1年生から6年生まで53人が所属する、大島で唯一の少年サッカーチームです。週に2日、町立つばき小学校の校庭で練習していました。台風後の校庭は土砂やがれきの集積場所となり、自衛隊のトラックが駐留しました。その後がれきは撤去されましたが、ガラス片などが散乱して今なお練習には使えない状態が続いています。子どもたちの自宅もまた、避難所や親戚宅に身を寄せるなどし、数週間間にわたって落ち着かない状態が続きました。中には家が全壊してしまった子もいます。

サッカーの練習は、体育館や小さなグラウンドを使っただけで再開されましたが、スペースが限られ、今も全員一緒に練習することはできません。

東京YMCAは台風直後から「東京都災害ボランティアセンター」に加盟する他の団体と協力して職員や会員を派遣し、土砂の清掃など支援活動を行っていました。今回の交流試合はそのつながりから実現したもので、支援資金から旅費の一部を補助し、小学生32人と引率の保護者など計44人を招待しました。

「YMCAワイズカップサッカー」は、東京江東ワイズメンズクラブと江東YMCAが主催する少年サッカー大会で、今回は「大島マリンス」を含め15チームから約500人の子どもたちが参加。56のグループに分かれ、約7時間にわたって対戦しました。会場は都立木場公園。用意された6つのコートには大勢の観客が立ち並び、2月とは思えない熱気に包まれました。

大島マリンスの監督・津登誠さん(大島社会福祉協議会職員)は、「大島にはサッカーチームが1つしかないのです。こんなに大きな大会に出場するのは初めてで、(ドンマイ!)と仲間をかばい合い、懸命にプレーする子どもたちの姿を見て、「サッカーっていいですね」と感動の声が多く聞かれました。なお、プレー



↑台風後の泥を掃除する作業員たち。YMCAは、たいましい子どもたち、家族の強い絆、支えあう地域社会を築きます。

1の後は東京江東ワイズメンズクラブから、この試合を記念し、名入りのサッカーボール10個がプレゼントされました。

子どもたちにとっては都内に来ること自体も新鮮な体験だったようです。大島には電車がなかったため、監督が切符の買い方を教えてくれたり、駅構内の点字ブロックの意味を教えたりする場面も見られました。コンビニも、日ごろはテレビでしか見られないため、記念にハサミなど文具を買ったり、家族へのお土産に生活用品を買った子もいたとか。試合の後に行った銭湯も、焼肉バイキングも珍しく、一つ一つが一大イベント。夜10時に帰りの船に乗った後も、興奮して眠れなかったそうです。

大会後、子どもたちから「とても楽しかった」「もっと練習しようと思った」と、丁寧な字で書かれた感想文をいただきました。今後4月19日・20日には、江東センターの子どもたち30人が伊豆大島を訪問し、再び交流試合を行なう予定です。

感想文より

「とっても楽しかったワイズカップ」

大島マリンスFC 網谷 優楽

ぼくたちがふだん練習していたグラウンドは、昨年の土砂災害で出た土砂が積まれてしまい、使えませんでした。積まれていた土砂はすぐになくなりましたが、ガラスやおわんの破片がまだ残っていて今も使えません。なので今まで4ヶ月間体育館や今までよりすごく小さいグラウンドで練習していました。そもそも大島には、サッカーチームが一つしかない所以他チームとの試合は、年に2、3回でした。だからいつも練習練習でした。そんな中ワイズカップという夢のような場へ招かれてぼくは、ずっと楽しみでした。うきうきして夜に何回も起きてしまいました。そしてむかえた試合は、残念ですが負けてしまいました。でもとっても楽しくプレーが出来ました。YMCAの方々には本当に感謝しています。またこのような機会があったら、とってもうれしいです。本当にありがとうございます。とっても楽しかったです。

東京江東ワイズメンズクラブの皆さんと、今津監督(写真後列中央)



YMCAワイズカップサッカー

約30年前、YMCAサッカーチームの子どもたちに試合を体験させたいと、東京江東ワイズメンズクラブが対戦相手を探し、会場なども整えて開催してくれたのが始まりです。幼児や低学年も参加できる大会は珍しいため、参加チームは増え、今では地域のイベントとして定着。江東区教育委員会も後援くださっています。

また同クラブは、寒い中でプレーする子どもたちに豚汁をサービスしており、大会の名物になっています。今年も前夜遅くまで準備し、700食がふるまわれました。



東京YMCA国際ホテル専門学校 学生が校庭整備を手伝う

「安心して校庭が使えるようにしたい」と、東京YMCA国際ホテル専門学校生7人と職員3人が3月10日～11日、大島町立つばき小学校の校庭整備を行ないました。がれきや土砂が積まれていた場所を中心に、ガラス片や各種ゴミなどを撤去。校庭全域までは完了できませんでしたが、先生方からは「練習できる見通しがたった」と喜ばれました。



赤△三角

先日パンケラデシユYMC Aの理事長と総主事が初めて来日した。二人が一番驚いたのがスマートフォンで

中9割の人が画面を見ていた姿を見て「見えない鎖につながれている奴隷(slave)のよう」と言われドキッとした▼携帯電話の発明で電話ボックスが激減し、CDができてレコードが消えた。新しいものが古いものを駆逐してゆくのは仕方ないことだとわかるが、無くしてはならないものもある▼卓越した技術者でとちぎYMCAの会員の一方が、「流された涙を調べてそれが、かなし涙だったのか、うれし涙だったのかは、どんなに科学が進歩してもわからない」と言われたことを思い出した。名言だと思った▼YMCAならそれがわかると思った。なぜならYMCAは涙を流す人の傍にいるからである。そしてYMCAは人々のかなし涙をうれし涙に変えてきた。どんなに携帯電話が進歩しても、友人が作れず寂しい思いをしている子どもたちがいる。CDなどでもいつでも音楽を聴ける時代になっても、ファイヤーを囲んで生で聴いたキャンブソングは何十年たっても色あせない▼神様が与えてくれたYMCAの働きは決してこの世からなくなることはない。新年度を迎え新しい人々がYMCAの仲間となるが、人々のかなし涙の傍に寄り添う人になっ

ってほしいと切に願う。(副総主事 菅谷淳)

2014年度 東京YMCA事業・運営方針

使命を遂行し、財政を健全に

【運營方針】

1. 使命の遂行
公益財団法人として市民社会形成と青少年の健全育成
など使命に適う働きを促進すると共に、幅広い支援・
寄付を受けることができる働きを推進する。

2. 復興支援

東日本大震災の復興支援については石巻市、福島県を中心に全国のYMCAとの協働の中で継続的な支援を進めて行く。

3. 財政健全化

2014年度は東京YMC A新中長期計画（財政再建計画）の最終年度に当る。新中長期計画を上まわる予算計画を策定し、財政健全化に取り組む。

4. 次期中期計画策定

東京YMCA次期（2015年度～2019年度）中期計画を策定する。東京YMCA現行諸事業の点検、再構築を図りながら、さらなる進展を構想する。

— 2014年度事業計画 —

定款に定めた目的を達成するための事業については、以下のとおり計画する。

(1) 教育、スポーツ等を通じて人々の心身の健全な発達に寄与し、又は豊かな人間性を涵養することを目的とする事業

- 幼児、青少年への体育プログラムを行い、生涯に亘って運動・スポーツを親しむ基礎を養う。
- 成人の健康増進を図るプログラムを展開する。
- 青年の多様な成長と学びを支援する通信制サポート校を開校する。

(2) 乳幼児・児童又は青少年の健全な育成と子育て支援を目的とする事業

- a. チャイルドケア事業を運営する。
- b. 乳幼児保育事業を行う。
- c. 子育て支援事業を行う。
- d. 児童館・学童保育事業を行う。

(3) 職業教育を通して勤労者の就労支援や福祉の向上を目的とする事業

- a. 専門学校を運営する。(ホテリエ育成、社会体育並びに保育専門従事者の育成)

(4) 国際相互理解教育や国際協力を促進し、国際交流のコミュニケーション能力育成を目的とする事業

- a. 国際交流のコミュニケーションとしての語学教育を行い、国際理解の基を築く。
- b. インターナショナルスクールを運営する。
- c. パートナリシッププログラムを検証し、発展させる（フロストバレー・バングラデシュ・北京・ハワイ島・ソウル）。
- d. 青少年の国際交流を促進させる。
- e. 在日外国人支援として生活情報を提供する。
- f. にほん語学院を設置し、在日外国人を含め、日本語教育を行うと共に幅広い文化交流を形成する。

(5) 生涯教育の場を提供し、豊かな学びと教養を得ることを目的とする事業

- a. 居場所プログラムを実施し、一人ひとりのいのちを大切にする。

(6) 地域社会の健全な発展を目的とする事業

- a. 地域社会との協働活動・協働事業を行う。
- b. 地域ネットワークの一員としての役割を担う。
- c. 奉仕者としての会員を中心とする地域奉仕・交流活動を行う
- d. 公益性事業進展のため国際協力基金、奨学基金、フレンドシップファンド及び、遺贈などを強化していく。

(7) 社会奉仕活動を実施することを目的とする事業

- a. 国際理解講座、ボランティアコーディネーター養成講座、市民講座、環境教育プログラムを行う。
- b. ボランティアによる活動を推進する。
- c. NPO、国際協力団体への施設提供を行う。
- d. 東日本大震災復興支援を継続し、特に石巻市に設置した拠点を用いていく。
- e. 福島県在住の家族、子どもらへのプログラム提供を継続して行う。

(8) 障がい者、及び高齢者の健康や福祉を増進することを目的とする事業

- a. 障がい児・者へのプログラムを行う。
- b. 高齢者介護予防プログラムを展開する。
- c. 発達障がい児へのプログラムを展開する。

(9) 自然環境の中で、野外・環境教育を伴う宿泊体験学習と余暇を豊かなものとする
ことを目的とする事業

- a. 諸団体の野外環境教育プログラムへの施設提供を行う。

(10) その他目的を達成するために必要な事業

- a. 東陽町センターの有効活用のため、空きスペースをNP0法人等他団体へ提供する。
- b. 山手センター駐車スペースを地域協力としてコインパーキングとして提供する。

2014年度 会員活動スケジュール

- ◆ 4月 チャリティーゴルフ (10日)
ユニークダンス (東京むかでワイズ協働、年2回、4月10日に開催)
- ◆ 5月 神田川船の会 (10日) (東京グリーンワイズ協働、10月18日にも開催)
第12回会員大会 (24日)
- ◆ 6月 第17回会員芸術祭 (28日、30日-7月5日)
- ◆ 8月 夏まつり (30日)
- ◆ 9月 第28回インターナショナルチャリティーラン (木場公園、23日)
- ◆ 10月 第31回会員ソフトボール大会 (13日)
- ◆ 11月 江戸城ファミリーウォーク (東京ワイズ協働)
ソシアスフォーラム (会員協議会) (15-16日)
- ◆ 3月 震災4周年行事 (8日)
- ◆ (時期未定) 国際協力一斉街頭募金 (渋谷)
第9回子育て講演会

ほかに、「早天祈祷会」「中国語聖書に親しむ会」「旧約聖書に親しもう」などを定期的に開催。また、各コミュニティセンターでは、「歌の広場」や各種ボランティア活動、バザー、クリスマス会など行事を予定。 詳細は会員部まで (tel. 03-3615-5568)

2014年度 運営方針 **重点事項**

- 1 持続可能な組織づくりと共に安定した事業運営を行う。
 - a. 2013年度決算で回復しつつある財政再建をさらに進め収支バランスをとる運営を執行する。
 - b. 2015年度以降の中期計画を作成する。
- 2 公益財団法人としての働きを強化する。
 - a. フレンドシップファンド、復興支援、国際協力などの募金活動を展開する。
 - b. YMCA運動推進のため会員数1200名を目指す。
 - c. 東京YMCAの所有施設を点検整備する。
- 3 市民社会の形成に関わり、青少年健全育成を図る。
 - a. 東京YMCA高等学院（通信制サポート校）を開校し軌道に乗せる。
 - b. 東日本大震災の被災地の継続的な復興支援を、設置した石巻市拠点と福島県郡山市を中心に行う。
 - c. コミュニティを豊かにする働きに参加し、特にユースリーダーの育成に関わる。
- 4 新規事業開発、特に幼児・児童・青少年のため、新法人も含め研究を行う。

以上

4章16～17節）
近頃「ビッグデータ」という言葉を新聞紙上によく見かけます。私たちのあらゆるデータを集めて、個人の好みや行動を消費に結びつけることを指しているようです。

成長よりも成熟した社会へ

すべての人を一つにしてください

たちが必至に迫いつこう
 としているようです。携
 帯電話が当たり前の時代
 ですが、いつでも、どこ
 でも他者とコミュニケーション
 する必要があるに
 あったのでしょうか。便
 利さを追い求めるうちに
 は競争ではなく共生が求
 めて行きたいと思いま
 す。

し、日本は人口減少の時
 代に入っています。今後
 のキーワードは成長では
 なく、成熟ではないでし
 ょうか。経済成長なしで
 もやっていける社会こそ
 目指すべきです。そこに
 生活のあり方、考
 え方を変えるために、Y
 MCA運動を今年度も進
 めて行きたいと思いま
 す。

（総主事 廣田光司）

(総主事 廣田光司)

今、ともに祈る 明日のいのちのために 東日本大震災 3周年礼拝

東日本大震災から3年。東京YMCAは「今、ともに祈るー明日のいのちのために」と題して3月9日、3周年礼拝を開催。山手センターを会場に約70人の会員・学生が集まり、14時46分に黙祷をささげ、今後の復興支援にむけて共に祈った。

第一部の礼拝では、野田と」と指摘。イエスが「最沢(たく)牧師(学生ギリ後の晩餐」で弟子たちに語った言葉、「わたしがあなたを愛したように、互いに愛し合いなさい」(新約聖書「ヨハネによる福音書」15章12節)について説明し、他者の痛みと共に生きることを次のように語られた。



野田沢牧師(学生キリスト教友愛会主事)

現代社会は、強さのみを求め、強さを誇示し、成功体験を集めて自信をつけようとするような社会である。しかし、イエスが十字架にかけられた直後の初期のキリスト教会の集

第二部では、東京YMCAが行なっている復興支援活動について各担当者から報告された。YMCA石巻支援センター職員伊藤剛士氏は、現在も仮設住宅での「歌の広場」など地域コミュニティ作りと、学童クラブなどの子ども支援

団は、財産や良いものだけでなく、痛みや、悲しみ、弱さもすべて分かち合うことによって他者から信頼され、仲間が増えていったと、新約聖書「使徒言行録」第2章43〜47節に書かれている。

を忘れないという応援メッセージとしても大きな意味がある」と述べた。

のリフレッシュキャンプも、企業の協賛を得てこれまでに累計45回開催。延べ1700人が参加した。石巻市の仮設住宅にお住まいの西村富子さんも来場し、現在に至るまでの思いを語られた(写真)。また、ちょうど来日していたバンクフデシユYMCA同盟の総主事と理事長も参列。バンクフデシユでも募金活動をしたことなどを紹介し、エールを送った。



バンクフデシユYMCA同盟総主事ニブンさんが、西村富子さんを励ました

心の財産が増えた

西村さんは震災当日、お孫さんの結婚式で上京していたため無事だったものの、自宅も実家も津波で全壊。全財産を失って、現在は仮設住宅で暮らしている。当初は脱力感におそわれるなど、苦しい思いをかかえていたが、ある時期からYMCAの歌の広場などに積極的に参加されるようになった。ボランティアを自宅に招いてご馳走くださるなど、いつも歓迎いただいている。今でも「湊一丁目に家があると錯覚する」と涙ぐみながらも、息子さんからプレゼントされたピアノを弾いたりして「何とか元気ぶっております」と笑う。YMCAやピースボートの人と知り合い、「心の財産が増えたように思っております」と語られた。



都内各地で街頭募金

3月11日前後に、東京YMCAの会員・ボランティア・メンバー・保護者および職員、ワイズメンズクラブが、下記要項で街頭募金を実施しました。

●J R高田馬場駅前 (写真上)
日 時：3月9日(日) 11:00〜16:00
主 催：山手コミュニティセンター
募金額：203,758円 参加者数：72人

●J R国立駅前
日 時：3月11日(火) 17:00〜18:30
主 催：西東京コミュニティセンター
募金額：¥100,725 参加者数：18人

●経堂駅前 (小田急線)
日 時：3月9日(日) 午後
主 催：南コミュニティセンター
募金額：18,428円 参加者数：42人

■田園調布駅前 (東急線)
日 時：3月9日(日) 午後
主 催：南コミュニティセンター
募金額：25,000円 参加者数：33人

子育て講演会

育児漫画家

高野優さんをむかえて



2007年に発足した教育シンポジウムも今回で第8回を迎え、2月22日午後、江東区のしのめこども園で開催した。今回から69名の若いお母さん、お父さん方の出席を得た。

今回の講師は育児漫画家として著名な高野優さんである。漫画を描きながら講演するという独特のスタイルで、参加者もよくご存知の講師であったようだ。講演会が全国各地で行

われるという人気講師で、東京都内での講演も今回が30回目となるという。『子どもにクソババアと言われるら』(教育出版)というショッキングな題のもののほか著書は40冊以上に及ぶ。NHKのテレビ『子どもを育てながら』、『完璧な子育てなんかはない』『漫画を通して子育てに悩む親を救いたい』と主張されている。

てばかりじゃもったいない。楽しまなくっちゃー」という大変興味深いもので、その場でスラスラ漫画を描きながらの講演はのっけから参加者を惹き込んだ。ご自分の3人のお嬢さんを育て上げた実例を話されたのだが、人に言えないような大変な苦労話を実に明るくそして説得力をもって話される。聴いている参加者の目がだんだん真剣になってくるのがよく分かる。最後には参加者の半分以上の方の目が赤くなり、ハンカチで目を拭くお母さん方が多く見られた。司会を担当した筆者も恥ずかしながらつい涙目となってしまった。これだけ共感を呼ぶ講師も少ないと思われ

筆者は「育命(イクジイ)」として、子育てならぬ保育で苦闘中であり、そのため実行委員として手を上げたのであるが、今回の講演は大変参考になった。子育てを楽しみながら行いたい。

子育てには子の成長とともに様々な、時には深刻な課題が出てくる。この子育て講演会が日本社会のお母さん、お父さんに課題解決の糸口を提供してゆくことを熱望するものである。

(子育て講演会実行委員／会員部運営委員 長澤弘)

東京八王子ワイズメンズクラブ 第16回 チャリティーコンサート

東京八王子ワイズメンズクラブは3月15日、八王子市北野市民センターホールを会場に250名ほどの来場者を得て、第16回チャリティーコンサートを催しました。地域への音楽のプレゼントを通して、「東日本大震災被災者支援」並びに「JCBL(地雷廃絶日本キャンペーン)運動支援」を目的としたものです。クラブでは、コンサートの1〜2週間前に、JR八王子駅頭で街頭募金を行うことも恒例とし、今回のコンサートは、並びに街頭募金に合わせて33万円となりました。この金額を折半して、

地雷のない世界に向けて

後も地中や地表にある限り、大人、子どもの区別なく、いつまでも無差別に、人の生命や手足をもぎ取り続ける非人道的な兵器、対地雷の使用を許してはならない、とのクラブメンバーの一致した思いが、コンサートに遭遇してからは双方の支援を目的に掲げてきました。JCBLとのかかわりは、当時東京YMCAのスタッフとして、熱心にJCBLの運動に取り組んでいた眞野玄範さん(現在は牧師として活躍)の父上である眞野範一さんが当クラブメンバーであることも結びつきの一つの要因ではありましたが、しかし、紛争終結

のクラブにとって、継続の力を実感する数字ではありません。東京八王子ワイズメンズクラブは、今秋、創立20周年を迎えることになり、いくつかの記念事業を計画していますが、10月25日の記念式典の講演では、JCBLの理事・運営委員を務められ、国際政治学・NGO論を専門とする、目加田説子氏(中央大学総合政策学部教授)をお招きする予定になっています。クラブも成人となって、一層、東京YMCAとともに、「世界を見つめ、地域に生きる」働きに励みたいと、メンバー一同思うところでです。

(東京八王子ワイズメンズクラブ会長 並木信一)